

強者の戦略

2018年度 東大地理 第2問 [解答解説編]

いかがでしたか？運輸の問題は恐らく学校でも真剣に取り上げる機会が少なく、また過去問もそんなに多くはないので苦戦されたのではないのでしょうか？暗記量よりも考える力が大いに必要だった問題でした。では、解答解説を始めていきます。

【解答】

設問A

- (1) 香港は中国他港の拡充で工業製品輸出が減少したが、シンガポールは経済発展の続く ASEAN 諸国の中継港として機能しているため。(59字)
- (2) (ア)ーオーストラリア (イ)ーブラジル
- (3) アメリカ大陸西岸に寄港したコンテナ船から工業製品が陸上輸送で東岸へ輸出された状況から直接東岸輸出へ変わる。また、ばら積み船大型化で穀物が1回で大量輸入でき、共に輸送費削減となる。(89字)

設問B

- (1) Aーインドネシア Bーインド
イランではイスラームの戒律に則った政治が行われ、政教分離を掲げるA国では戒律にとらわれない自由な政治が行われている。(58字)
- (2) 共にイギリス植民地であり、南アフリカ共和国はさとうきび農園、マレーシアは天然ゴム農園の労働力として導入されたため。(57字)
- (3) 工業化の進んだ東南アジア諸国から遅れたアフリカ諸国へ労働集約型製品の輸出が増え、また、鉱産資源開発の投資も進む。(56字)

【解説】

設問A

- (1) 製品の使い方がちょっと難しいですが、論述地理の問題を多く解いてきたか、そうでないかが如実に答案に表れる問題かなと思います。香港とシンガポールの問題ではありますが、表2-1には

その他の港湾都市も掲載されています。多くの問題を解いてきた経験があれば、“**他の港湾都市に解答のヒントがあるはず!**”と見抜けられたと思います。ここでずーっと香港のことだけを考えていても、相当の香港ファンでない限り、十分な記述をすることはできないでしょう。下の表でも示しましたが、ポイントは上海が6位→1位、深圳が11位→3位と急上昇していることです。深圳は1979年に経済特区に設定されてはいましたが、2000年頃は今ほど港湾施設が拡充していたわけではありませんでした。私も2000年に訪れていますが、まだまだ発展途上の都市で、中国一治安が悪いとか言われていたと思います。香港から鉄道で深圳に渡り、治安が悪そうなのであまり街を歩き回らず、タクシーで一気に「世界之窗」というテーマパークに直行しました。世界中の有名な建築物がかなり縮小されて展示されていました。自由の女神とかエッフェル塔とかですね。今はどうなっているかは知りませんが、1回は行ってもいいところだと思います。

表2-1

2014年 世界順位	2000年 世界順位	港 湾 名	2014年取扱量 (千TEU)
1	6	上 海	35,285
2	2	シンガポール	33,869
3	11	深 圳	24,037
4	1	香 港	22,283
5	—	寧 波	19,430
6	3	釜 山	18,678
11	5	ロッテルダム	12,297
13	4	高 雄	10,590

話がそれましたが、「香港の順位の低下は他の港のコンテナ取扱量が増えてシェアを奪われたから」と判断できます。香港の順位の低下の大きな原因は港湾料金の高さと言われています。香港経由は深圳経由と比べると、2004年に296ドル、2006年には277ドルも高かったです。荷主がコストを重視する昨今では、香港の地位低下は避けられな

強者の戦略

い状況です。一方、長江デルタの上海、珠江デルタの深圳は工業化が進み、様々な工業製品が輸出されるようになり、コンテナ取扱量が増加しました。

一方のシンガポールは、貿易の中継港としての役割を担い、東南アジアの積み替えハブ港として発展してきました。シンガポール港はこれまで、寄港する船会社へのコスト面での優遇政策や港湾設備への積極的な投資、また港のオペレーション効率化のために港内システムへの投資を行い、利用する船会社にとって使い勝手の良い港となってきました。そこに地理的要因も加わり、世界のコンテナ取扱ランキングは上海に次いで2位に位置しており、着実にコンテナの取扱量を伸ばしてきました。

ただ、2015年、2016年とシンガポールのコンテナ取扱量は減少しています。取扱量が減少している主な要因は、アジアの港の台頭が挙げられます。近年、東南アジアのハブ港を巡る競争が激しくなっており、その中でも、シンガポール港とマレーシアのタンジュンペラパス港、またポートケラン港との間で、積み替えハブ港をめぐる競争が激しさを増しています。

参考：『アジアにおける海上輸送と主要港湾の現状』
：シンガポール代表ニュースレター（H29.1）

(2) (ア)に関しては、鉄鉱石・原料炭・一般炭の到着国がいずれも東アジア地域になっているので、東アジアに近接しているオーストラリアとなります。(イ)に関しては、鉄鉱石が中国と日本に到着していることしか情報はありませんが、鉄鉱石の統計データ上位にブラジルがあることを考慮して、ブラジルと判断しましょう。

(3) パナマ運河の拡張工事の完成によって、世界の貿易構造は大きく変化しています。第一に、船舶の大型化による規模の経済性が、さらなる貿易

の促進に繋がっています。工業製品や生鮮品などの取引が、ますますグローバルな規模に拡大しています。第二に、従来は**パナマ運河を通行できなかった大型船や専用船の航行が可能になったこと**で、シェールガス、液化天然ガスを含めた新たな貨物が運河を経由して輸送されています。第三には、パナマ運河がボトルネックになり、アジアからの北米向けの貨物の約6割は、北米の西海岸の港で陸揚げされ列車で北米東岸やメキシコ湾岸に輸送されていましたが、この輸送経路が大幅に再編されています。

上記のような変化はある程度は予想可能ですが、3行でまとめるのは至難の業ですね。5個も指定ワードがあるなんて珍しい問題です。とりあえず、輸出品と輸入品の例を挙げなければなりません。表2-2に載っている北アメリカの情報は、原料炭と穀物になります。これは設問Aのリード文から[ばら積み船]によって輸入されると分かります。あとは、[コンテナ船]に関しての輸出品を挙げればいいですね。工業製品(安価な労働集約製品)が最適かと思います。

次に[陸上輸送]、[アメリカ大陸]を考えます。東アジアとアメリカ大陸との位置関係を考えれば、恐らく西海岸に辿り着いた物資が[陸上輸送]で東岸のメガロポリス地域へ送られることをイメージできます。となれば、パナマ運河が拡張され、海路で東岸まで直接輸送されることになり、[輸送費]の削減に繋がったことを想定できます。これで輸出の話はOKでしょう。

原料炭と穀物は、ばら積み船の大型化によって、一度に運べる量が増え、その分[輸送費]の削減に繋がったことを想定できます。これで輸入の話はOKでしょう。輸送費の面以外でも、海上輸送の距離が長くなった分だけ、二酸化炭素の排出量を減らすことが出来て、**地球温暖化問題に対しても良い影響を与える**と考えられています。

強者の戦略

設問B

(1) 「2億人を超える世界最大のムスリム人口」という表現から、当然A国は2億人を超えているわけで、東南アジアで2億人を超える国はインドネシアしかありません。また、「南アジアには1億を超えるムスリム人口を擁するB国、パキスタン、バングラデシュ」という表現から、当然B国は1億人を超えているわけで、南アジアでパキスタン、バングラデシュ以外で1億人を超えている国はインドしかありません。この問題で本番間違えるようなことがあれば致命的でしょう。

国の統治のあり方に関しては、A国のインドネシアが問われたのが意外でした(トルコの政教分離はよく出題されます)。まず、イランの国名はイラン＝イスラーム共和国です。イスラム教を国教とし、イスラームの戒律に則った政治が行われています。しかし、インドネシアでは政教分離が掲げられているため、政治に宗教が用いられることはありません。2017年、インドネシアのジョコ＝ウィドド大統領は、北スマトラ州のイスラム教関連行事に出席し、「宗教と政治は、国民が明確に理解できる形で分離しているべきだ」と述べています。

(2) この問題も東大にしては易しい問題でした。イギリスは、自国の支配下にある植民地各国に、プランテーション労働力としてインド人を数多く導入してきました。問題文に書かれてある国以外では、南アメリカ北東部のガイアナ、太平洋のフィジーなども対象国です。フィジーではさとうきび農園にインド人が導入され、その後、ヒンドゥー教を信仰するインド人とキリスト教を信仰するフィジー人の間で対立が生まれました。マレーシア、南アフリカ共和国からイギリス植民地であったことを考え、さとうきび農園、天然ゴム農園の労働力としてインド人を導入し

た、というごく普通の流れで大丈夫です。

(3) 設問Aの(3)と同様に、未来のことを類推させる問題です。今後もこの形式の問題が増えていくと思われるので、過去のことを覚え、理解するだけでなく、習った地理的事象が数年後はどうなっていくのかも考えながら地理学習を進めていきましょう。

「両地域の経済発展の状況」を考えると、発展が進んだ東南アジア、発展が遅れているアフリカ諸国となるでしょう。あとは言い方の問題ですね。経済水準が高い、低いという言い方をしてもいいし、工業化が進んでいる、進んでいないという言い方をしてもいいでしょう。

一般的には、工業化が進んでいない地域は農作物や鉱産資源などの一次産品を工業化が進んでいる地域に輸出します。また、工業化が進んでいる地域は、賃金水準の上昇から、繊維産業や電気機械産業などは安価な労働力が得られる工業化が進んでいない地域に海外直接投資します。また、工業製品の生産に欠かせない鉱産資源を開発するための投資も盛んになります。

これを東南アジア諸国とアフリカ諸国に当てはめれば解答が出来上がります。解答例では鉱産資源開発の投資の方向で書きました。

次回も東大の2018年度の問題を解説するつもりです。それまでにしっかり頑張って実力を上げておいてくださいね！